

国史跡 会津 大塚山古墳

会津若松市は会津盆地南東縁部に位置し、市内一箕町には、多くの古墳が分布しています。その中でも会津大塚山古墳、堂ヶ作山古墳、飯盛山古墳は丘陵上に造られた大型古墳で、この地域を治めていた権力者の古墳と考えられています。

会津大塚山古墳は、一箕町八幡の大塚山頂上に位置し、昭和39年に会津若松史編纂にあたり、この時代の資料が少なかったことから発掘調査が行われました。

当時は、西日本の古墳文化が東北地方に伝わるのに数百年かかるため、会津大塚山古墳も古墳時代の終わりにあたる、7世紀頃の築造と考えられていました。

ところが調査してみると、三角縁神獸鏡をはじめとする3枚の鏡、勾玉・ガラス玉などの装飾品、三葉環頭大刀・鉄鏃・銅鏃などの武具、鉄斧・刀子などの農耕具など約380点が出土し、出土品の年代や、墳丘の形状から古墳時代前期にあたる4世紀後半の古墳と考えられました。現在ではそれより古く、4世紀中頃の古墳と考えられています。

東北地方の古墳で、これほど豊富で貴重な副葬品を持つ古墳はなく、また、副葬品が大和政権に関係する古墳と共通しているため、この古墳の被葬者は、大和政権と関係をもった人物であることがわかります。

また、堂ヶ作山古墳からは、会津大塚山古墳よりも古い時期の土器が出土しており、飯盛山古墳も発掘調査は行われていませんが、古墳の形状から会津大塚山古墳よりも古い時期に造られたと考えられています。



不動川沿いに築かれた3つの古墳(北西から撮影)

<p>さんかくぶちにしんにじゅうきょう 三角縁二神二獣鏡 (名称は調査報告書による) (南棺) (直径21.4cm)</p>  <p>鏡の縁の断面が三角形で、神像と獣像が対に表現されています。霊力のある神や獣の姿から、不老長寿の願いが込められた鏡であると考えられます。同じ鑄型から作られた鏡が、岡山県備前市鶴山丸山古墳から出土しています。</p>	<p>へんけいしじゅうきょう 変形四獣鏡 (南棺) (直径9.5cm)</p>  <p>変形した獣像が4体表現された鏡。</p>	<p>さんようかんとうた ち 三葉環頭大刀 (南棺) (長さ約1.2m)</p>  <p>柄頭(つかがしら)が丸く、その内部が三葉形となっています。(鉄製)</p>
<p>ゆき 靱 (南棺)</p>  <p>矢を入れる容器で、鉄を上に向けて入れます。矢を入れる部分は織物で、その下は木製です。全体に漆が塗られています。木質は腐ってなくなり、漆だけが残っている状態だったので、ポリエステルで固め、土ごと取り上げました。</p>  <p>まじないの印と 言われる「直弧文」。</p> <p>靱想定復元図(『会津若松史別巻1』より)</p>	<p>ねじもんきょう 振文鏡 (北棺) (直径10.2cm)</p>  <p>獣像が変形し、ねじれた文様となった鏡。絹布とみられる織物が付着しています。</p>	<p>やりがんな 鈹 (南棺) (長さ13.8cm)</p>  <p>糸が巻かれた痕跡</p> <p>てつぞく 鉄鍔 (南棺)</p>  <p>(左から2番目長さ8.7cm)</p>
<p>まがたま 勾玉 (南棺) (長さ2.7cm)</p>  <p>硬玉(ヒスイ)製</p>	<p>ほうすいしやがたせきせいひん 紡錘車形石製品 (北棺) (直径5.85cm)</p>  <p>糸をつむぐ道具を模し、石で作られたもの。(緑色凝灰岩製)</p>	
<p>ガラス小玉 (南棺)</p>  <p>(径3mm) (径5~7.5mm)</p>		

会津大塚山古墳
—発掘調査から今日までの歩み—

昭和39年5月	発掘調査実施
昭和39年9月	報告書『会津若松史 別巻1』刊行
昭和47年5月26日	「大塚山古墳」国史跡指定
昭和52年6月11日	「会津大塚山古墳出土品」国重要文化財指定
昭和63年4月~5月	再測量調査(全長114mであることが判明)

写真提供 表紙空中写真及び出土品……福島県立博物館
発掘調査記録……会津若松市立会津図書館

会津若松市教育委員会文化課 TEL0242-39-1305



大塚山に築かれた古墳・塚

大塚山は、不動川の北側に位置する比高差約30mの南北に細長い丘陵で、頂上に会津大塚山古墳、その周辺に、円墳や横穴墓、中世の経塚が築かれています。

円墳は、大塚山古墳が築かれた後の時期に大塚山古墳の前方部上、及び西側から北側に9基築かれ、木炭で覆われた棺の跡や、石棺が出土したものもあります。

横穴墓は、大塚山の南側斜面に12基が、古墳時代の終わりに造られました。

また、中世には、後円部に経塚が築かれ、昭和39年の調査では、陶器の四耳壺が出土しました。

古墳の形状と規模

古墳の形は「前方後円墳」という円形と長方形を組み合わせた形で、丘陵を部分的に削ったり、削った土を積んだりして形を整えています。

後円部、前方部ともに2段から3段に構築されており、全長114mを測る東北地方屈指の大型古墳です。

また、後円部と前方部が接する東側の部位が張り出した独特な形状となっています。

埋葬施設(埋葬された跡)

後円部中央の約1.5～1.8m程の深さに、埋葬された跡が北と南に2つ並んで発見されました。

棺を納めるために掘り込まれた墓穴の規模は、南棺側が長さ約12m、幅約4m、北棺側が長さ約10m、幅約3.5mで、黒土化した棺の痕跡のみが確認されました。南棺は長さ9.3m、幅1.1m、北棺は長さ7m、幅1mと推定されます。

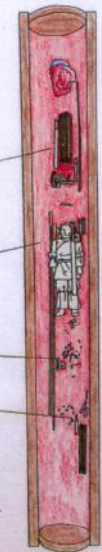
棺は、丸太を縦に半分にし、中をくり抜いて作られた「割竹形木棺」です。両端を粘土で押さえています。

2つの棺は同時に埋められたのではなく、南棺が先に、その後北棺が埋められたことが土層の観察からわかりました。



(西から撮影)

- 頭の上方に矢を入れた鞆
- 遺体の頭部脇に鏡と大刀
- 足下に鏡と装身具
- 鉄剣と装身具
- 出土品に赤色顔料が付着していたことから棺内全体が赤彩されていたと推測されます。



南棺埋葬状況イメージ図

靱と銅鏃
棺内に見られた赤色顔料

靱に納められた銅鏃

鉄斧と砥石

南 棺

**三角縁神獸鏡と
三葉環頭大刀**

**変形四獣鏡、鉞、
勾玉、管玉**

鉄剣と直刀

振文鏡と紡錘車形石製品

靱

鉄剣と鉄斧

直刀 **鉄剣** **鉄剣**

短冊形鉄斧 **有袋鉄斧**

鉄剣

北 棺

会津学知会



灰塚山古墳

会津盆地北西部地域文化財調査成果周知事業

シンポジウム 灰塚山古墳の 埋葬者

令和元年 11月3日 午後1時～4時
慶徳ふれあい館

入場無料・申込不要

▶ 濃紺色のガラス製腕飾り

- 喜多方市灰塚山古墳発掘調査成果
辻 秀人氏 (東北学院大学教授)
- 灰塚山古墳出土人骨の人類学的特徴
奈良 貴史氏 (新潟医療福祉大学教授)
- 灰塚山古墳出土人骨の年代測定と安定同位体分析
米田 穰氏 (東京大学教授)
- 灰塚山古墳出土人骨のDNA分析
安達 登氏 (山梨大学教授)
- 灰塚山古墳出土人骨の復顔
鈴木 敏彦氏 (東北大学准教授)
波田野悠夏氏 (東北大学大学院・日本学術振興会特別研究員)

◆ パネルディスカッション

お問い合わせ 喜多方市教育委員会 文化課 文化振興班
TEL. 0241-24-5323

▶ 大刀

◀ 出土した人骨から復元されたイメージ画像



会津学知会歴史散策名簿

歴史散策
会津大塚古墳散策
2019.10.20

No	所属	役員・他	氏名	古墳探索	香寿庵・食事	鶴ヶ城散策
01	会津学知会	会長	佐藤和光	不参加	参加	不参加
02	会津学知会	副会長	庄司井利則	参加	参加	参加
03	会津学知会		武藤駿	参加	参加	参加
04	会津学知会		宮崎勲	参加	不参加	不参加
05	会津学知会		大堀孝子	不参加	不参加	不参加
06	会津学知会	幹事	塩谷徳子	参加	参加	参加
07	会津学知会		二瓶陽子	参加	参加	不参加
08						
09						
10	福島同窓会	会長	斎藤洋文	参加	参加	参加
11	福島同窓会	副会長	館順子	参加	参加	参加
12	福島同窓会	顧問	斎藤栄一	参加	参加	参加
13	福島同窓会		北村亮子	不参加	不参加	不参加
14	福島同窓会		山田涼子	参加	参加	参加
15	福島同窓会					
16						
17						
18	栃木同窓会	会長	須藤國夫	参加	参加	参加
19	栃木同窓会	事務局長	島田文子	参加	参加	参加
20	栃木同窓会		堅田史子	参加	参加	参加
21	栃木同窓会	学生	菊池藤吾	参加	参加	参加
22	栃木同窓会					
23	栃木同窓会					
24						
25	講師		中野まさ子	参加	参加	参加
	計(名)			14	14	12